

2013 年 宮崎県母性衛生学会

母乳率向上に向けた取り組み ～パンフレット導入による効果～

医療法人社団政彬会 野田医院

○川越 裕子、高野 和代、前田 琴美

【目的】

昨年行った当院の研究より、妊娠中から母乳栄養に対する知識を提供し、動機づけを行うことが母乳栄養に有意に関係することが分かった。そこで、妊産婦を対象にした母乳栄養に関するパンフレットを作成し、妊娠中から産後にかけて自ら学ぶことのできる環境を整えた。母乳栄養が確立される3か月までの母乳率を明らかにすることで当院の取り組みの効果を明らかにする。

【方法】

母乳栄養に関するパンフレットを作成し、閲覧できる環境を整えた。

対象：2013年1月中旬～3月中旬までに当院に入院した母親133名。

調査方法：産後1週～1か月時と3か月時の母乳率を求めた。また、母乳希望や妊娠中の乳頭の手入れの有無等を調べ、母乳率との関連を検討した。

産後1週～1か月時は看護記録より、3か月時は無記名自記式質問紙を郵送し(117名)、記入後郵送にて回収した。

【結果】

- ・産後1週時の母乳率は29%(昨年29%)、3週時は57.1%(昨年45%)、1か月健診時は63%(昨年63%)、3か月時では76%であった。
- ・「妊娠中より乳頭の手入れをする」は、27%(昨年8%)であった。
- ・「初産婦」の1か月時の母乳率は、58.2%(昨年52.2%)であった。
- ・「当院以外で出産」の1か月時の母乳率は、43.8%(昨年38.1%)であった。

【考察】

昨年と比較して、産後1週時と1か月時の母乳率は変化がなかった。しかし、昨年調査していなかった3か月時の母乳率は76%であり、平成22年度乳幼児栄養調査(1か月時点の母乳栄養率は51.6%、3か月時点は56.8%)よりもはるかによい。また、昨年「初産婦」・「当院以外での出産」といった因子が低い母乳栄養率であったが、今回はこれらの母乳率が増加しており、パンフレット導入による効果もあると思われた。